

H16.10.4 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成16年10月4日(月) 14時00分～16時00分

議事概要：

表 H16.10.4 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答	
1.豊川水系のネコギギ個体群の現状分布について	・既往調査によるネコギギの推定個体数を再整理した。	・個体数が多いところは経年変化を押さえるべきである。	・事務局：モニタリング調査として継続していく。	
		・ヒアリングでギギが存在しているとのことであるが、ギギに関しては、PVAとは別に考慮しなくてはいけない問題となってくるだろう。	・事務局：ネコギギ調査時には、可能な限り、ギギの確認にも努める。	
2.ネコギギ分布調査結果について	・分布調査結果について報告した。	・今年の状況は初めてであり、来年の調査は、今年生まれの当歳魚がどうなっているか調査すべきである。	・事務局：次年度以降も、継続してモニタリング調査を実施する。	
3.野外実験の考え方について	・野外実験の考え方について、事務局案を提示した。	・野外実験ケースの全ケースは、現実には困難である。全部のケースを行うのではなく、数ケースを繰り返すという考え方もある。目的に対し、具体的な仮説をどのようなデザインで検証するか、現実的な場所、繰り返しを考えていくべきである。	・事務局：ご指摘の点をふまえ、実験ケースの見直しを行う。	
		・実験ケースは理解できるが、コントロールが全ケースに対応していない。		
		・移植先が湛水する場所ならば、エコアップの面では、やる意味がないと思う。		・事務局：基本的に、実験で得たいことは本資料に掲載した仮説の検証であるため、実験場所は、事業レイアウトに規定されないと考える。
		・ダム影響がある場所、環境が悪い場所を良くする実験が大事ではないか。原因を詰められれば、実験等、既設ダム下流で実施することに賛成する。ダムの影響を考える上でも良い。		・事務局：環境改善の対象範囲として既設ダム下流も想定している。また、豊川水系におけるネコギギの生息状況を参考に、環境改善策を検討し、必要に応じて実験等を行っていききたい。
4.予備的検討（PVA:個体群存続可能性分析）について	・PVAに関する予備的検討計画を提示した。	・評価書は、モニタリング調査が終了した後に出すべきではないか。	・事務局：モニタリング後の平成26年に出しても、不確実性があると考えられるため、他とバランスをとって平成18年に評価書としている。アセスの手続きとしては、評価書に不確実性がある場合は、事後調査を実施して公表する。	

5. 野外実験の詳細計画(案)について	・ 野外実験の詳細計画(案)を提示した。	・ 増殖はどこでやるのか。	・ 事務局：飼育、交配実績のある施設で実施したいと考えており、今後、各機関等と調整をはかっていく予定である。
		・ 既往の施設だけでは無理だと思う。新しい専門の施設、人をつける必要がある。	・ 事務局：ご指摘の点をふまえ、今後、具体的な検討・調整を進めていきたい。
		・ 増殖についてどこでだれがやるという実行性を考える必要がある。	
		・ 川、生物は不安要素が多い。今後数年やっていくことになるが柔軟な対応が必要である。	
		・ H16 年度は多くの当歳魚が確認できた。従って、今後親をとるシナリオを整理し、文化庁に了承を得られるよう、タイミングが来たらすぐネコギギをとれる準備をする必要がある。	・ 事務局：ご指摘の点をふまえ、文化庁等関係機関との調整を進める。
6. 集団間の交配の取り扱いについて	・ 集団構造の遺伝的解析結果について報告した。	・ ネコギギ集団は同じ水系のものであり、遺伝子が全然違うと考える必要はないが、地理的なものは考える必要がある。また、ダムサイト上流に分布する個体を保護するために、リスクの少ない順に交雑させるべき。	・ 事務局：ご指摘の点をふまえ、今後、具体的な放流計画を検討していきたい。